

Collection Exhibition

Kumi Sugai

New Collections, Donated in 2017
Man Ray and Marcel Duchamp, Culture of the Garden

冬の所蔵作品展



小特集

菅井 溆 (カズミ スガイ) 31.32

菅井 溆

マン・レイとデュシャン

庭園に集う文化 / 新収蔵品紹介

2019 (平成31)年 1月2日(水) → 4月14日(日)
2階展示室

開館
50
周年
記念

開館時間: 9:00 - 17:00

※3月31日までの金曜日は19:00まで、4月1日以降の金曜日は20:00まで開館
※入場は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日

※特別展会期中・祝日・振替休日を除く

※2月25日は展示替えのため閉室

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円、
高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※()内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

press release

【概要】

開館50周年記念 冬の所蔵作品展

小特集 菅井 汲

マン・レイとデュシャン／庭園に集う文化／新収蔵品紹介

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わり、今年2018年、開館50周年の節目を迎えることができました。

開館以来、多くの方々のご協力を得て、コレクションを充実させてきました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,000点を超えています。

冬期の所蔵作品展では、人間国宝による工芸作品、マン・レイとデュシャン、菅井汲、庭園に集う文化といったテーマで美術のさまざまな側面をご紹介します。新収蔵作品展では昨年度の寄贈作品をお披露目いたします。

来館するごとに新しい美の魅力を発見し、心とんでいただける展示をめざし、今後も努力を重ねていくことで、美術館を支えてくださる皆さま方への感謝の気持ちを表してまいります。

今後の所蔵作品展にもご期待ください。

【内容】

人間国宝の系譜 ～江戸から現代まで～

演劇、音楽、工芸技術など、目に見えない「わざ」を「無形文化財」として法律で保護し、それらの「わざ」を高度に体得している人を重要無形文化財保持者、いわゆる「人間国宝」に認定する制度が誕生したのは、第二次世界大戦後の1950年代のことです。

この制度が成立したのは戦後のことですが、無形の「わざ」を守ろうという意識は、明治期に始まる「帝室技芸員」からもうかがうことができます。明治中期から終戦前年まで続いたこの制度は、優れた技芸を身につけた美術家・工芸家を皇室(帝室)が顕彰することによって、日本独自の「技芸」を保護しようとするものでした。

今回は、重要無形文化財保持者(人間国宝)とその前身ともいえる帝室技芸員の作品、さらに江戸時代の伊万里柿右衛門様式の磁器をあわせて展示します。江戸時代の藩による保護から明治以降の皇室による保護へ、そして戦後は国による保護へとかたちを変えながら伝えられてきた優れた技と美をご鑑賞ください。



芹沢銈介《晴雨屏風》
1962(昭和37年)型染・二曲一隻

press release

マン・レイ 時代の肖像、デュシャンを中心に

当館では、1920～30年代(両大戦間)の美術作品を重点的に収集しています。そのうち西洋美術の分野では、同時代の芸術家たちを撮影したマン・レイの写真作品を42点収集しています。

さて、今年度50周年を迎えた当館は、1968(昭和43)年9月22日に開館しました。奇しくも、その10日後、マン・レイととりわけ親しかったフランスの美術家、マルセル・デュシャンが亡くなりました。

デュシャンは20世紀の美術に多大な影響を及ぼしました。とりわけ既製品を美術作品へと転用する「レディ・メイド」という概念は既存の価値観を覆し、以後の美術を大きく変容させます。

この展示室では、デュシャン没後50年のこの機に、当館所蔵のマン・レイの作品の中から、親交の深かったデュシャンとの仕事や肖像を写した作品を中心にをご紹介します。また、この時代においてデュシャンがどのような仕事をしたかにも着目します。

このたびは高松市美術館、広島市現代美術館より出品していただいた貴重なデュシャン作品3点を交えるとともに、彼らとも繋がりがあったサルバドール・ダリやフランシス・ピカビア、ジョゼフ・コーネルらの作品も展覧します。マン・レイによって記録に留められたデュシャンの革新性や、同時代の芸術家たちとの影響関係を紐解いてみましょう。



マン・レイ《埃の培養》
1920年(大正9年)写真

菅井汲 理想を追い求めた作家

パリで活動を始めてすぐに人気作家になった菅井は「未来の美術を自分の手で創り出す」という夢を追って何度も作風を変えました。そのたびに人気を掴む彼は、なんの苦勞も知らないといった雰囲気を出していますが、実は多くの挫折がありました。例えば、国際展で受賞を重ね人気絶頂の1967年、自動車事故で首の骨を折る重傷を負いました。退院すると、まだ自由に動かない体のままで次の作品に取り組みますが、助手を雇わないと絵が仕上げられないなど、思い通りにできないことが沢山ありました。

彼は、そうした不満の一つひとつを前向きな思考で乗り越えていきました。そうした菅井にまつわるエピソードを知れば知るほど、彼の成功は、困難に負けず理想を追い続けた彼だからこそ手にすることのできた結果だったのだと理解できます。一つのヒントを徹底的に咀嚼していく彼の制作態度もそうしたことの現れと言えるでしょう。

この展示では菅井が一つのテーマをどれだけ掘り下げるのか、その徹底ぶりが感じられる作品を中心にをご紹介します。どうぞお楽しみください。



菅井汲《カドミウム・レッド 31.32》
制作年不詳 アクリル・画布

press release

庭園に集う文化

当館に隣接する名勝「縮景園」が旧広島藩主浅野家によって築かれた大名庭園であることは、多くの方がご存じでしょう。2019年には浅野家の広島入国400年、2020年には「縮景園」築庭開始400年を迎えることとなります。

大名庭園とは、神仙蓬莱、浄土式、寝殿造、枯山水、露地など様々な名称を関した作庭様式に基づき近世大名が作った庭園のことを指します。地割(土地の構成)に始まる庭園造りにおいて、蓬莱山や池泉のイメージは特に重要なものです。蓬莱山は不老不死の願いから生まれた伝説の島で、厳島にも託されるイメージとして、絵画にもたびたび描かれました。また、縮景園の場合、大海原を写した池泉には、中国の景勝地である西湖のイメージが投影されたと伝えられています。西湖の風景を特に愛したのは、脱俗の生活を好んで絵画のテーマにもなった人々でした。

この展示室では、江戸時代の庭園文化に交わる主題を持つ作品や、庭園に集う人々を連想させる作品、庭園造りの根幹にも通じる水景をテーマとする作品を取り上げます。これらの絵画作品を通して、庭園造りに託された先人の想い、庭園に遊ぶ人々のすがたにも親しみを深めていただけましたら幸いです。



塩出英雄《清泉》
1953年(昭和28年)紙本彩色

新収蔵品紹介

この展示室では、昨年度にご寄贈、ご寄託いただいた日本画と日本洋画、工芸の作品を中心にをご紹介します。

日本画家の村上華岳は、土田麦僊らと国画創作協会を結成し、東西の様式を取り入れた神秘的な作品を多く残し、橋本関雪は、文展・帝展を中心に活躍し、その鋭い観察眼によって描かれた動物画は独自の画業を切り拓きました。

日本の近代洋画史に大きな足跡を残した南薫造は、英仏への留学に際して同郷の小林千古の助言を受けたといわれています。帰国後は、温和な画風で文展での受賞を重ね、若くして画壇での地位を築きました。小林和作は、40代半ばから尾道に移り住み、四季折々にスケッチ旅行を重ね、風景美を描き続けました。また、殿敷侃は、幼少時の入市被曝の体験が、制作活動に大きな影響を与えました。

工芸では、広島伝統工芸として知られる高盛絵の技法を受け継いだ五代金城一国齋の作品をご覧ください。

このお披露目を通じて、作品と皆さまとの素敵な出会いが生まれれば幸いです。



小林和作《石廊崎》
制作年不詳 油彩

press release

【関連イベント】

① 学芸員によるギャラリーリレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式でご紹介するトークイベントです。

日時：2019年3月8日(金) 15:00～(1時間30分程度)

場所：2階 展示室

講師：おかじ さとこ やました ひさな かくだ あらた すみかわ あきひろ岡地 智子、山下 寿水、角田 新、隅川 明宏(当館学芸員)

※ 申込不要、要入館券。会場入り口でお待ちください。

※ 高校生以下、65歳以上の方は無料です。学生証および年齢のわかる証明書をご提示ください。

② 所蔵作品ミニガイドの配布

今回特集する「菅井 汲」と「マン・レイ」について分かりやすくまとめたミニガイドブックを配布します。(無料)



③ 広島県立美術館 所蔵作品総選挙 結果発表

秋の所蔵作品展で出品された当館名品約100点の中から、ご投票いただきました人気投票の結果発表をいたします。

※結果発表は館内掲示及びホームページ、フェイスブックなどのSNSにてお知らせいたします。

④ 友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時：平日14:00～／土日祝11:00～、14:00～(1時間程度)

場所：2階 展示室

参加料：無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像をご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22 TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail m-kaminishis4677@pref.hiroshima.lg.jp (上西宛)または、iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内 有理

総務課 広報担当 上西 真由美 一色 直香